

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100220		
法人名	株式会社ワタナベ		
事業所名	グループホームゆふの郷		
所在地	福岡県福岡市南区長丘1-4-37		
自己評価作成日	令和3年9月27日	評価結果確定日	令和3年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「高齢者主体的に選択出来る生活の場を創る。」を実現するために母体である調剤薬局との協議を行い、自宅内、施設において1人1人のイメージにあった介護を目指しています。グループホーム入居から、「みんな家族だ、ゆふの郷」の方針で最期まで安心して過ごせる施設を目指しています。また併設の小規模多機能と共に「長丘よか隊」へ加入しており、地域の一事業所として、地域に貢献出来る事業所になるよう努めてまいります。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆふの郷」は平成26年12月に開催され、小規模多機能と併設型の2ユニットからなるグループホームである。母体法人は福祉調剤薬局グループで、福祉事業部は地域に根差した総合福祉サービスを展開している。地域の福祉事業所による「長丘住んでよか隊」に参加し、自治会、社協などの協力により「夏まつり」「もちつき」などが行われ地域との交流も盛んである。コロナ禍の中、思ふような活動はできないが、敬老会には小学校の生徒よりお便りをもらい、利用者からもお返事を出した。家族には、レクレーションなどへの取り組み、日頃の様子を、お便り、電話などで逐一連絡している。外出の機会も持ちにくい、テラスで日光浴、近隣を散歩、ドライブに行くなど季節を感じてもらっている。事業所の今年の目標としては「看取り」について、より深く職員全員で取り組みができるよう力を入れている。「みんな家族だ、ゆふの郷」の方針で最期まで安心して過ごせる施設を目指している。今後も発展が期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義は理解出来ているものの、コロナウィルスの影響にて、範囲が狭まっている。	事業所の理念は管理者、職員で考えた。理念、行動方針とともに、朝礼時などに唱和し全員で共有している。理念は2階、3階の事業所内、休憩室に掲げてある。理念に基づき、職員一同で「みんな家族だ」という気持ちのもと、管理者を中心に一週間の予定について話し合い、実践につなげている。	今後、理念に基づいた個人目標をたて、個人面談なども行うようにして、なお一層、理念を共有し実践につなげていられることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響にて、地域への参加が出来なくなっている。	地区の福祉事業所が集まり結成された「長丘住んでよか隊」が中心となり、地域行事などに参加していた。コロナ禍の中、活動は思うようにできなかったが、情報交換は行った。自治会に入会しており、自治会長さんが回覧板を届けてくれる。敬老会には小学校の生徒と利用者がお便り交換を行なった。社協が主体となる「街角かかりつけ隊」に参加しており、車いすの貸し出し、1階の小規模多機能事業所前で脱水症を起こしていた方の手助けを行った。地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入会しているとの事、公民館との繋がりも持たれ、より一層地域の情報を得てみてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご相談の来られる方には、理解しその人にあった支援を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響にて、本年度出来ておらず。	運営推進会議は二か月に1回行い、家族、自治会長、社協、地域包括などの参加がある。ヒヤリハットや事故報告などを行い、家族、参加者から意見を頂きサービス向上に活かしている。コロナ禍の中、今年度は開催はできず、令和2年に長住ふれあいの家にて他の施設の参加により運営推進会議にて、意見交換を行なった。家族には毎月「ゆふの郷」のお便りで、利用者の様子、サービスの取り組み状況などをお知らせをしている。	今後、開催にあたっては、案内とともに議事録を家族などにも、送付されるようにしてみてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	制度に関しわからない事、請求の件などをメール、電話で相談をしている。コロナワクチン接種の事も相談した。介護保険の申請などは郵送している。市町村担当者とは相談しやすき関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践できている。身体疾患にて安全面が必要な時(オペ前)のみ、ご家族様と話し合い許可を取り、行った。	年2回身体拘束について社内研修を行う。3か月に1回は事業所で管理者が講師になり研修をしている。ユマニチュード技法などの話も取り入れている。言葉かけに関しては、その都度注意をしている。転倒の危険があり、夜間のみセンサーを利用している方もおり、家族からの承諾は受けている。離設される利用者があり、警察官が本人を自宅まで送ってくれた事があった。3階入り口にはセンサーを設置してある。	

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	努めている。	現在制度の利用者はいない。年1回は研修を行っている。暮らしの現状の把握に努め、必要な時は法人内に弁護士がおり、取り次ぐことができる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定時、説明をしている。	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は聞いているが、外部者への表せる機会、運営に反映は難しくなっている。	コロナ禍の中、家族の訪問は予約制にしている。週1回は訪問があり、テラスから利用者、家族とお互いに様子が伺える。1階の面談室で行ったり、家族からの差し入れは玄関先で受け取ったりと、その時の状況に合わせている。訪問時に家族から意見、要望をもらう。毎月1回、個別で写真付きの便りを発行し、イベントの様子などを知らせている。スマートフォンで写真を送信することもある。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実施できている。	1階の小規模多機能と合同で話し合いが行われ、意見、提案などが活発に出されている。事故、ヒヤリハットに対して全員で話し合っている。シフト交換の相談にも対応してもらうなど、相談はいつでもできる。職員間でもお互いに協力し合い、仕事のやりがいもあり、次に向けての励みになっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	足りない所も多々ありますが、整備に努力はしている。	
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している。	職員の年齢は30歳代から60歳代と幅が広い。休憩時間も一時間あり、職員同士で情報交換を行っている。制服も2枚あり重宝している。職員は作品作り、歌を唄うなどそれぞれ得意な事に取り組んでいる。研修の案内もあり、自己実現にむけ、研修の機会が持てる。2年前に介護福祉士の資格を取り、令和2年1月に正社員になった。認知ケアの勉強もしたいと思っている。今後も研修などを受け、自己研鑽に励もうと意欲的である。

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修にて、定期的に取り組んでいる。	「見る」「話す」「触れる」「立つ」という人間の持つ特性に働きかけ寄り添う、認知症ケア方法のひとつである「ユマニチュード」の研修は、事業所内で勉強会を行っている。管理者が身体拘束などを中心に研修を受け、職員に伝達研修を行っている。歯科医師が見えた時に、1階の小規模多機能とゆふの郷と一緒に研修を受けている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修はコロナウィルスの影響にて中止になっており、各事業所での研修となっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響にて難しい所もあるが、出来る範囲で行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	配慮している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	配慮している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意見を聞きながら、一緒にする気持ちで行っている。		

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響にて難しくなっているものの、外部受診の際、御自宅の近くの道を通ったり、出来る範囲のことを行っている。	以前勤務していた職場の同僚、近隣の方、教会の方などの訪問があった。コロナ禍の中、思うような訪問も困難になった。教会の方はお便りを届けてくれる。美容師さんが事業所を訪問してくれる。敬老の日には小学生からお便りをもらい、利用者もお返事を出している。外部受診の際、利用者宅近くの道を通ったりするなど、今まで大切にしてきた関係が途切れないように、できる範囲の事を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。ご本人のペースを大切にしている。	入居時は、事業所に来てもらったり、施設、病院などを、管理者、看護師、ケアマネジャー、介護士などが訪問する。利用者、家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、不安な事、要望などを、しっかりと聞き取る。意思を伝える事が難しい利用者には、表情、仕草などから思いをくみ取るようにしている。一人ひとりの思いを職員全員で把握し、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅でされてきた事、継続出来るように、気持ちを大切にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努め、その時にあった対応に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・短期、長期切れ、変化があった時に作成している。	プランに沿いながら、毎日のケアが実施され、評価をしている。担当者は2名を受け持ち、気づきを大事にし、申し送りを行う。職員全員で情報を共有し話し合い、変化を見逃さないようにモニタリングを行う。担当者会議で、利用者、家族の意向、目標の達成状況、医師、看護師などの意見を取り入れ、管理者、ケアマネジャーを中心に見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成する。短期は6か月、長期は1年で、変化があった時はその都度作成する。	事業者独自の様式「ライフサポートプラン」を作成しプランに紐づいたケアが実施され、気づきもよくできている。今後も引き続き、現状に即した介護計画を作成することに期待したい。

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録に記入、情報を共有し必要なケアを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム内での生活になっており、出来ていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各主治医、ご家族様と連携しながら行っている。	元々のかかりつけ医を利用され、往診をしてもらい、急な時は電話にて医師の指示を仰ぐことができる。提携医は2クリニックの医師の往診があり、24時間対応してもらえる。事業所には常勤の看護師が1名、資格を持っている職員もいる。他科受診は家族又は事業所に対応し、医療情報は医師間で行ってもらい、受診時の様子、薬の変更など看護ノートで全員が確認している。医療情報も随時家族とのやり取りで共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々変化時は連携が取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、情報交換に努めており、安心して治療、退院して安心して施設での日常生活が出来るように、相談しながら行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携し、ご家族様の意向を大切にしながら、段階をおいながら、支援を行っている。	看取りの指針はあり、契約時に本人、家族に説明し、同意書ももらっている。事業所開設から5名様、今年3名様様の看取りを行った。重度化の際には改めて家族、医師、職員などと話し合いの時間をもち、同意を得て看取りのプランを立てる。遠方の家族とはリモートで行った。常勤の看護師もおり、事業所が持っている介護力、看護力を十分に説明し方針を共有している。職員も寄り添う気持ちになっており、看取りに向け管理者を中心に、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員にはしているも、地域への支援の呼びかけは出来ていない。	防災訓練は火災、地震など年2回、1回は夜間想定で行っている。建物の責任者に参加してもらった。車いすの利用者が全体で7名おり、ベランダ側の安全な場所に救助がくるまで待機してもらい、1階から消防署には通報できるシステムになっている。	地域との協力体制を作っていくため、公民館などで情報を収集し、事業所での防災訓練への参加呼びかけをしたり、事業所として地域の防災訓練に参加できる機会を持たせてみたらどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、目上の方への言葉使い、対応の仕方を注意しながら行っている。	接遇マナーの内部研修を行っている。接遇五原則「あいさつ、表情、身だしなみ、態度、言葉づかい」は朝礼時に職員全員で共有している。言葉遣い、対応などについては気が付いた時に、管理者が随時注意をしている。写真掲示に関しては利用者、家族に承諾をえて同意書も、もらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをして、意向を聞くように心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしているが、業務に追われると、職員の気持ちの余裕がなくなるときもある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方はして頂き、出来ない方も以前していた姿に近付くように、スタッフが接している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の介護度が進んだのもあり、準備と一緒にというところは出来ていなかった。スタッフのペースになってしまっている。	食事は業者から調理済みの食材を配達してもらい、暖め、刻みなどを行い、ご飯は事業所で炊いている。敬老会の時はお寿司の出前を頼んだ。おやつレクレーションでは「お好み焼き、焼きそば、パンケーキ」などを作ったり、お月見鑑賞をした。職員が浴衣を着て「炭坑節」を踊り、利用者も一緒に踊り、楽しい時間を持った。食事の外出レクは思うように行えなかったが、利用者と職員と一緒に食事の時間を楽しんだ。	

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養不足・脱水を防ぐ為、1人1人の状態にきを配り、介助を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要なケアを行っている。	各ユニットごとに全員分の状況を一日のチェック表に、排泄、水分摂取量、内服、食事チェック、バイタルなどが記載されている。気付きはその都度書き込み、職員間で共有し看護師と連携している。排泄の声かけを早めにする事で、失禁の回数が減り、パッドの使用量も減った。トイレの場所がわからず、失敗のある時は、様子、時間を見ながらトイレに誘導することで改善されてきている。チェック表により総合的に見て、習慣を生かし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて便秘の把握、必要なケアを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	汚染時以外、入浴日は決まった曜日となっている。入浴中は、気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けている。	月曜日から土曜日の間で午前中に2回入浴の時間がある。希望、タイミングなどで午後に入ることもある。個浴で湯はそのたびに変える。シャンプー、リンス、石鹸などは自分の好きな物を使用している。入浴時には皮膚観察を行っている。入浴は大事なコミュニケーションの場として、気持ちよく、ゆっくりと行ってもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせる様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が、内服の内容までは把握出来ていないが看護師より、内服は個人ファイルを作り、いつでも見れるようにしている。。連絡ノートに注意事項の記入はしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品は、出来る範囲で利用者様に提供出来るように支援している。1人1人の役割は、家事など出来る事は声掛けをしている。月1回大きなレク、出前など提供している。		

R3.10外部評価表(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響にて外出は出来ない。	コロナ禍の中、外出は思うようにできていないが、おやつ、飲み物を持ち、近隣の公園に桜を見に行ったり、紅葉を見に行ったりしている。家族と一緒に近隣を散歩する方もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的には、利用者様持っておらず、立替となっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている方は、自由にされており、手紙もご家族様から届くことがある。施設からは毎月1回ご利用者様の様子をお便りとしてだしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節のものを貼ったり工夫はしている。音・温度などにも気を配り、快適に過ごして頂けるように工夫をしている。	南向きの明るい日差しが差し込むリビングを中心に居室が配置されている。自然とリビングに集まり、それぞれ、ぬり絵、ちぎり絵をしたり思い思いに過ごしている。壁には外出時の写真、習字の得意な職員が書いた歌詞のイラストが飾ってある。2階は機械浴、3階は一般浴がある。2階のテラスには家族が持ってきてくれた季節のプランターの花が微笑みかけるように咲、利用者が水をあげている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況を見て、工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様より、お写真や昔を思い出すものを持ってきていただいたり、工夫をしている。	居室の表札は花や植物が描かれ、カラフルな色どりで飾られている。部屋の上部には飾りだな兼収納だなが設置されている。花の好きな母親への息子さんからのプレゼントの薔薇のプリザーブドフラワーが、飾られ優雅な雰囲気の居室になっていた。ご家族の写真や思い出深いものに囲まれ、心休まる空間を作り出している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやなどご自身で行かれる方にわかるように。張り紙を貼ったり、安全に歩行できるように配慮している。		